

冊修二一ノ

book review

An Atlas of Transvaginal Sonography
Jonathan Carter

J B Lippincott Co. ¥26,520
(医学書院・洋書部調べ)

経腔超音波検査をおこなうと、その良好な解像力ゆえに経腹走査法とは全く別の検査という印象をもつものであるが、卵胞モニタリング、採卵を目的とした当初の対象から、今やその有用性は多様に広がっている。多くの若い医師は経腔超音波検査の経験を経ずに、内診から直ちに経腔超音波検査を行い、診断を確認することが普通のこととなってきた。本書は著者も述べているように経腔超音波検査の text book ではなく、極力解説文を省いて、大きくて見やすい豊富な写真の紹介に重点を置いている。妊娠初期の項目はあるものの、多くは不妊領域を含む婦人科疾患について、とくに日常よくみられる疾患には多くの写真枚数をあてている。実際の経腔プローブの走査法についても説明している反面、新しい領域である color Doppler 法を第1章にあげて子宮、卵巢の生理的状态、良性、悪性疾患の多くの症例を提示して興味深い。また経腔超音波検査を行うとよく遭遇する腸管や尿路系、リンパ節の異常についても頁がさかれており、診断の参考になるものと思われる。

東海大学医学部産婦人科教授 牧野 恒久

Danforth's Obstetrics and Gynecology (第7版)
J R Scott et al.

J B Lippincott Co. ¥22,270
(医学書院・洋書部調べ)

産婦人科のテキストブックとしてはウィリアムスの産科書やノバックの婦人科書がよく知られているが、本書は産科学と婦人科学の両方を網羅したテキストブックであり、総頁1,121, 54人の専門家の分担執筆により55章のトピックからなる。周産期、生殖内分泌、腫瘍という産婦人科の3主要領域はもちろん、性感染症や更年期、医学倫理、医事法にも1章ずつが設けられており、産婦人科のほぼ全領域がカバーされている。産科麻酔、乳房の生理・病理といった章も設けられているが、この点はわが国のこの種のテキストブックとは異なったユニークな点である。版を重ねるごとに当然ながら新しい知見が加わることになるが、第6版で総頁1,254, 全56章であったものが第7版はむしろ多少コンパクトになっている。しかし、たとえば、生殖の領域では、Assisted Reproductive Technology や Endoscopic Surgery など比較的新しい分野が独立した章として取り上げられており、意味のない古い知識の羅列を避け、できるだけ新しい知見を積極的に取り入れていこうとする編集方針が窺える。

また、各章の終りには推奨すべき文献のリストがあげられており、読者が各章のトピックから、さらに詳細な知識を会得しやすいような工夫もみられ、テキストブックとして通読するばかりでなく、辞書的な使い方も可能となっている。

東京女子医科大学母子総合医療センター助教授 岩下 光利